

2013年度 大阪経済法科大学 春学期末試験答案用紙

【問題 1】 次の資料に基づき、純粋先入先出法により完成品原価、完成品単位原価（月初仕掛品完成分と当月投入完成分）、月末仕掛品原価を求めなさい。
[資料]

①	当月の生産データ			
	月 初 仕 掛 品	400 個	(0.5)	
	当 月 投 入	2,500 個		
	合 計	2,900 個		
	月 末 仕 掛 品	500 個	(0.2)	
	完 成 品	2,400 個		
	※（ ）内の数値は加工進捗度を示す。			
②	当月の原価データ			
		直接材料費	加工費	合 計
	月 初 仕 掛 品 原 価	¥420,000	¥348,000	¥768,000
	当 月 投 入 原 価	¥2,655,000	¥4,278,000	¥6,933,000

【問題 2】 当社では、全原価要素工程別原価計算によって製品原価計算を行っている。また、月末仕掛品原価は平均法によって計算している。次の資料に基づいて、非累加法（工程を単一とみなす計算方法）により最終完成品原価、最終完成品単位原価および月末仕掛品原価を計算しなさい。
[資料]

①	当月の生産データ			
	第 1 工 程		第 2 工 程	
	月 初 仕 掛 品	500 個 (40%)	月 初 仕 掛 品	700 個 (80%)
	当 月 投 入	3,940 個	当 月 投 入	3,800 個
	合 計	4,440 個	合 計	4,500 個
	正 常 仕 損	一個	正 常 仕 損	100 個 (100%)
	月 末 仕 掛 品	640 個 (75%)	月 末 仕 掛 品	400 個 (50%)
	完 成 品	3,800 個	完 成 品	4,000 個
②	当月の原価データ			
		第1工程	第2工程	
	月 初 仕 掛 品 原 価			
	材料費	¥710,880	¥985,600	
	第1工程加工費	¥208,000	¥731,840	
	第2工程加工費	¥－	¥620,000	
	当 月 投 入 原 価			
	材料費	¥5,705,120	¥－	
	第1工程加工費	¥4,080,000	¥－	
	第2工程加工費	¥－	¥2,992,000	

※ 材料は、第1工程の視点ですべて投入される。また、第1工程の完成品はすべて、ただちに第2工程の始点に投入される。
※ 生産データの（ ）内の数値は、加工進捗度および仕損の発生点を示す。
※ 正常仕損費の負担は、正常仕損の発生点によって判断している。

【問題 3】 次の資料に基づき、完成品原価、完成品単位原価、月末仕掛品原価を求めなさい。月末仕掛品への原価配分方法は平均法によること。
[資料]

①	当月の生産データ			
	月 初 仕 掛 品	400kg	(0.4)	
	当 月 投 入	2,600kg		
	合 計	3,000kg		
	正 常 減 損	200 kg		
	月 末 仕 掛 品	800 kg	(0.6)	
	完 成 品	2,000 kg		
	※（ ）内の数値は加工進捗度を示している。なお、材料はすべて工程の始点で投入された。			
②	当月の原価データ			
		直接材料費	加工費	合 計
	月 初 仕 掛 品 原 価	¥544,000	¥768,000	¥1,312,000
	当 月 投 入 原 価	¥3,622,400	¥12,028,800	¥15,651,200
③	正常減損は工程を通じて平均的に発生している。非度外視法により計算すること。			

科 目	教員名	学籍番号	氏 名	採点
33441 原価計算	2062 山根 陽一	入学年度 E L 番		

（裏面使用のときはこの位置を上段にして記入すること）

【問題 4】当工場では、等級品AおよびBを生産し、等級別総合原価計算により製品原価を計算している。次の資料に基づき、各等級品の完成品原価、完成品単位原価、月末仕掛品原価を計算しなさい。

[資料]

① 当月の生産データ

製 品 A			製 品 B		
月 初 仕 掛 品	200 個	(30%)	月 初 仕 掛 品	140 個	(70%)
当 月 投 入	1,160 個		当 月 投 入	840 個	
合 計	1,360 個		合 計	980 個	
正 常 仕 損	120 個	(60%)	正 常 仕 損	80 個	(60%)
月 末 仕 掛 品	240 個	(70%)	月 末 仕 掛 品	180 個	(50%)
完 成 品	1,000 個		完 成 品	720 個	

② 当月の原価データ

	製 品 A	製 品 B
月 初 仕 掛 品 原 価		
材料費	¥5,620,800	¥2,217,600
加工費	¥1,161,600	¥1,739,600
当 月 投 入 原 価		
材料費	¥41,600,000	
加工費	¥35,760,000	

※ 月末仕掛品原価の計算は、平均法による。
※ 正常仕損費の処理は進捗度を加味した度外視法による。なお、仕損品の評価額はゼロとする。

③ 等価係数に関する資料

	製 品 A	製 品 B
材料費	1	0.6
加工費	1	0.8

※ 等価係数は原価要素別に上記のように設定している。なお、等級別計算は等価係数を用いて当期投入原価を各等級品に配分し、等級品ごとに完成品原価を計算する方法（組別総合原価計算に近い方法）による。

【問題 5】当工場では、材料Xを投入して連産品A、B、Cを生産している。次の資料に基づき、市価法によって各連産品に配賦される連結原価をそれぞれ計算しなさい。

[資料]

① 当工場では第 1 工程の始点で材料 X を投入し、第 1 工程の終点で連産品 A、B、C が分離される。そのうち連産品 A 及び B はそのまま製品 A 及び製品 B として売却しているが、連産品 C は第 2 工程で追加加工を施し、製品 D として売却している。

② 当月の第 1 工程における完成品量は 1,800kg であり、その内訳は以下のとおりである。なお、月初及び月末に仕掛品はなかった。

連産品 A	750kg	連産品 B	600kg	連産品 C	450kg
-------	-------	-------	-------	-------	-------

③ 当月の第 1 工程における投入原価は以下のとおりであった。

材料費	376,200 円	加工費	329,400 円
-----	-----------	-----	-----------

④ 各製品の正常市価および見積分離後加工費は以下のとおりである。

	製品 A	製品 B	製品 D
正 常 市 価	@840 円	@960 円	@1,680 円
見 積 分 離 後 加 工 費	—	—	198,000 円

2013年度 大阪経済法科大学 春学期末試験答案用紙

【問題 1】

完 成 品 原 価	円
完 成 品 単 位 原 価 (月初仕掛品完成分)	円
完 成 品 単 位 原 価 (当月投入完成分)	円
月 末 仕 掛 品 原 価	円

【問題 2】

	最 終 完 成 品 原 価	最 終 完 成 品 単 位 原 価	月 末 仕 掛 品 原 価
第 1 工 程 費	円	円	円
第 2 工 程 費	円	円	円
合 計	円	円	円

【問題 3】

完 成 品 原 価	円
完 成 品 単 位 原 価	円
月 末 仕 掛 品 原 価	円

【問題 4】

	完 成 品 原 価	完 成 品 単 位 原 価	月 末 仕 掛 品 原 価
製 品 A	円	円	円
製 品 B	円	円	円

【問題 5】

	連 結 原 価
連 産 品 A	円
連 産 品 B	円
連 産 品 C	円

科 目	教員名	学籍番号	氏 名	採点
33441 原価計算	2062 山根 陽一	入学年度 E・L 番		